

編集後記

■編集委員

委員長

藤田 郁代

副委員長

立石 雅子

今井 智子

内田 信也

宇野 彰

勝木 準

倉内 紀子

倉知 雅子

佐藤 睦子

城間 将江

鈴木 恵子

関 啓子

玉井 ふみ

長谷川 賢一

春原 則子

深浦 順一

藤原 百合

水田 秀子

矢守 麻奈

今年の夏は例年にも増して暑い日が長く続きましたが、ようやく朝夕に秋の気配を感じる候となりました。本号には、第16回日本言語聴覚学会における発表演題の事後抄録、失語症の音韻処理に関する原著論文1編(宮崎泰広氏)、言語聴覚士モデル・コア・カリキュラム諮問委員会の報告が掲載されています。

第16回日本言語聴覚学会は2015年6月26日～27日に東北大学病院の遠藤佳子先生を会長として仙台市で盛大に開催されました。一般演題は283題にのぼり、特別プログラムとして森悦朗教授の特別講演、3題の教育講演、2個のシンポジウム、3個のワークショップ、2個のミニレクチャー、ほかに摂食嚥下障害集中セミナーが企画され、活気にあふれた学会でした。日本言語聴覚士協会が第1回の学術集会を開催したのは2000年11月3日であり、横浜市の鶴見会館が会場でした。協会は同年1月16日に設立されたばかりであり、一般演題を募る時間的余裕がなく、記念講演「地域リハビリテーションの現状と展望」(浜村明德先生)とシンポジウム「言語と認知」が行われました。このような状況であっても、学術集会の開催を急いだのは、言語聴覚士の言語聴覚障害がある方への貢献の基本は障害の病態、発現メカニズム、評価・治療法の科学的究明に裏付けられた臨床を提供することであるとの考えから、その歩みを1年でも停滞させたくないと思ったからです。

それから15年が経過し、今回の学会では非常に多様な観点からの研究が多数報告されました。研究は業務報告とは異なり、日々臨床を行っているだけでは実を結びません。リサーチ・マインドを持って臨床に当たること、常日頃から国内外の文献に親しむこと、さらに研究の作法・技法を修得する努力を続けることが必要です。このようなたゆまぬ努力が近年の言語聴覚障害学と言語聴覚療法の発展につながっているものと思います。

(藤田郁代)

言語聴覚研究(第12巻 第3号)2015年9月15日発行

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

編集・発行：一般社団法人 日本言語聴覚士協会(会長：深浦順一)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-29 アクロポリス東京 9 階

(☎03-6280-7628 FAX 03-6280-7629) <http://www.jaslht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Acropolis Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

©2015, Printed in Japan

制作・発売：(株)医学書院(代表：金原 優) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23(振替口座 00170-9-96693 番)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659・5660(FAX 03-3815-7804)

印刷所 (株)アイワード ☎ 011-241-9341(FAX 011-207-6178)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎ 03-3817-8036(FAX 03-3817-8044)